

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	東亜大学（学部・学科等の課程）					設置者名	学校法人 東亜大学学園			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和５年度）				
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数	
							実数	個別		
人間科学部	心理臨床・子ども学科 児童教育専攻	平成24年	30人	幼一種免	平成24年度 (令和元年度)	27人	7人	5人	4人	
				小一種免	平成24年度 (令和元年度)			7人		
	スポーツ健康学科 保健体育専攻	平成24年	50人	中一種免（保健体育）	平成24年度 (令和元年度)	59人	26人	21人	9人	
				高一種免（保健体育）	平成24年度 (令和元年度)			26人		
芸術学部	アート・デザイン学科	平成5年	50人	中一種免（美術）	平成12年度 (令和元年度)	24人	1人	0人	0人	
				高一種免（美術）	平成12年度 (令和元年度)			1人		
				高一種免（工芸）	平成12年度 (令和元年度)			1人		
入学定員合計			130人	合計		110人	34人	61人	13人	
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、令和６年４月１日現在の名称・定員を記載してください。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数を記載してください。									

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：令和6年12月11日（水）

実地視察大学：東亜大学（実地）

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等について全般的に基準は満たしているものの、改善が求められる点があった。今後は必要な措置を講じ、教員養成の水準の向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○貴学としての教員養成に対する理念・構想を明確化し、その理念を具体化・具現化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織が充実したものとなるように努めていただきたい。

○人間科学部心理臨床・子ども学科児童教育専攻について、「教員養成を主たる目的とする学部学科等」であることを今一度認識いただき、そのあり方について学長のリーダーシップのもと、総合的に検討いただきたい。

○今後は、課程認定を受けている学部学科等ごとではなく、全学的な教職課程の運営体制を構築していただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○一部の授業科目について、教職課程コアカリキュラムを満たしていないものが見受けられた。シラバス等について、再度見直しを行うとともに、シラバスが教職課程コアカリキュラムを満たしているか、教職課程を担当する教員について、適切な業績を有しているか等を改めて見直していただき、教職課程における質保証を担保するための体制を構築いただきたい。

3. 教育実習の取組状況

○教員がほとんどの実習生に対して、訪問指導を行っていることが確認できた。

○教育実習は、大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。今後は、教育委員会等とも連携を密にいただき、近隣の学校における実習校確保に努めていただきたい。なお、学生の負担軽減等の観点からやむを得ず遠隔地の学校や学生の母校における実習を行う場合においても、実習先の学校と連携し、大学が教育実習にいっそう関わる体制を構築するとともに、実習期間中の学生への適切な指導方法、公正な評価が保証されるよう、今後とも努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○教職課程を履修する学生への履修指導の充実や円滑な運営が行えるよう、教員及び事務の役割分担を含めた教職課程を支える組織体制について、学長のリーダーシップのもと、早急に構築していただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○今後、近隣の学校における実習先の確保や地域の教員養成に対する要望等の情報共有も含め、教育委員会等との連携を進めていただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○施設・設備については一定整備されていることが確認できた。今後も必要に応じて充実を期待する。

○図書館の蔵書が古く、学生が勉学に励めるような環境整備が十分整っていなかった。学生が最新の知識を得られるよう、今後教職に関する書籍（電子書籍を含む）の購入を検討すること。

7. その他特記事項

○「体験実習Ⅰ・Ⅱ」について、低学年から教職の現場を学生に体験させる試みは評価できる。今後、この取組を学校体験活動に位置づける等、免許取得者を増加させるような、さらなる発展を期待したい。